

令和8年度新規地区採択チェックリスト

(8-2) 農業競争力強化基盤整備事業(農業競争力強化農地整備事業(草地畜産基盤整備事業))

(都道府県名:北海道)(地区名:苫前中北部)

1. 必須事項

項目	評価の内容	判定
1. 事業の必要性が明確であること。(必要性)	・農業生産性の向上、農業総生産の維持・増大、農業生産の選択的拡大、農業構造の改善等の観点から、当該事業を必要とすること。	○
2. 技術的可能性が確実であること。	・地形、地質、水利状況等からみて、当該事業の施行が技術的に可能であること。	○
3. 事業の効率性が十分見込まれること。(効率性)	・当該事業の効用の発現が十分見込まれ、すべての効用がそのすべての費用を償うこと。	○
4. 受益者負担の可能性が十分であること。(公平性)	・当該事業の費用に係る受益農家の負担が、農家経営の状況からみて、負担能力の限度を超えることとならないこと。	○
5. 環境との調和に配慮していること。	・当該事業が環境との調和に配慮したものであること。	○
6. 事業の採択要件を満たしていること。	・事業実施要綱・要領に規定された事業内容、採択基準の要件に適合していること。	○

項目を満たしている場合は「○」とする。

項目欄の()には、主として考えられる観点を記述している。

令和8年度新規地区採択チェックリスト

(8-2) 農業競争力強化基盤整備事業(農業競争力強化農地整備事業(草地畜産基盤整備事業))
 (都道府県名:北海道)(地区名:苫前中北部)

2. 優先配慮事項

【効率性・有効性】

評価項目			評価指標	単位	評価結果	評価
大項目	中項目	小項目				
効率性	事業の経済性・効率性		①事業費の経済性・効率性の確保 ②コスト縮減についての具体的配慮	—	①○ ②—	B
有効性	食料安全保障の確保	農業生産性の維持・向上	土地生産性及び労働生産性の維持・向上効果額(受益頭数当たり)	千円/頭・年	14.1	A
	農業の持続的発展	望ましい農業構造の確立	認定農業者等の割合 ・事業参加経営体に占める担い手農家の割合 《公共牧場整備事業》 ・公共牧場利用経営体に占める担い手農家の割合	%	100	A
		農地の確保・有効利用	①担い手農家への飼料生産基盤の集積(作業受託を含む) ②基盤整備の実施により耕作放棄地の発生を未然に防止し、飼料生産基盤を確保 ③離農跡地・耕作放棄地等の活用	—	①— ②— ③—	—
	農村の振興	地域経済への波及効果	他産業への経済波及効果額(受益頭数当たり)	千円/頭・年	102.3	A
	多面的機能の発揮	環境機能の維持・増進	環境関連効果額(受益頭数当たり)	千円/頭・年	1.3	B
	環境と調和のとれた食料システムの確立	みどりの食料システム戦略に係る取組	「みどりの食料システム戦略」に係る取組の検討状況	—	①— ②— ③— ④—	B
		生態系・景観への配慮	①環境情報協議会等の意見を踏まえた生態系及び景観への配慮 ②地域住民の参加や地域住民との合意形成への取組 ③維持管理、費用負担、モニタリング体制等の調整状況	—	① a ② a ③ a	A

【事業の実施環境等】

評価項目			評価指標	単位	評価結果	評価
大項目	中項目	小項目				
事業の実施環境等	連携管理保全計画（水土里ビジョン）の策定		連携管理保全計画（水土里ビジョン）の策定状況	—	A	A
	関係計画との連携		①酪農及び肉用牛生産近代化計画（市町村計画等）の酪農経営又は肉用牛経営の改善目標との整合性 ②事業実施する飼料生産基盤に係る土地が、農業振興地域整備計画における農用区域内であること。 ③地域計画と本事業との整合性 ④地域における開発計画と本事業との整合性	—	① a ② a ③ a ④ a	A
	関係機関との協議		①河川管理者との協議（予備）の状況 ②用地取得に係る権利関係の調整状況 ③その他着工前に重要な協議（予備）の状況	—	①— ② a ③ a	A
	地元合意		①市町村関係者及び事業参加経営体への説明がなされ、理解が得られていること。 ②補助残の融資について関係機関で調整が行われていること。 ③事業参加経営体（公共牧場を含み、公共牧場の整備を行う場合にあつては、牧場利用者を含む。）の意向が十分反映された計画となっていること。 ④事業に伴う土地利用規制の周知状況	—	① a ② b ③ a ④ a	B
	事業推進体制		①事業推進協議会等地元の意見を調整する機関が設立されていること。 ②行政、農協等の担当部局が明確になっていること。 ③周辺住民の同意が得られていること。	—	① a ② a ③ a	A

評価項目			評価指標	単位	評価結果	評価
大項目	中項目	小項目				
事業の実 施環境等	維持管理体制		①草地、施設等に係る管理組織等が整備されていること。 ②普及技術センター、農協等が参画する営農支援体制が整備されていること。 ③フラッグシップ輸出産地又は輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）の対象となる作物の営農計画への位置付け状況	—	① a ② a ③ a	A
	緊急性		飼料自給率の向上を図るため早期に実施する必要があること。	—	A	A
	ストック効果の最大化		ストック効果の最大化に向けた事業の効率性・有効性等の確保	%	73	B

苫前中北部地区の事業の効用に関する説明資料

1 総費用総便益比の算定

(1) 総費用総便益比の総括

(単位：千円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①=②+③	1,285,930
当該事業による費用	②	1,102,856
関連事業による費用、資産価額、再整備費	③	183,074
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	④	46年
社会的割引率		4%
総便益額（現在価値化）	⑤	2,489,862
総費用総便益比	⑥=⑤÷①	1.93

(2) 総費用の総括

(単位：千円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	資産価額 (事業着工 時点) ①	当該事業 による費 用 ②	関連事業 による費 用 ③	再整備費 ④	資産価額 (評価期間 終了時点) ⑤	総費用 ⑥= ③ +④-⑤
当 該 事 業	区画整理	-	438,879	-	-	-	438,879
	施設用地造成整備	-	134,757	-	-	23,348	111,409
	家畜保護施設整備	-	268,251	-	79,759	33,199	314,811
	飼料調製貯蔵施設整備	-	120,673	-	35,776	13,347	143,102
	家畜排せつ物処理施設整備	-	89,543	-	26,546	9,814	106,275
	牧場用機械施設整備	-	50,753	-	129,714	9,013	171,454
	計	0	1,102,856	-	271,795	88,721	1,285,930
そ の 他							0
							0
	計						0
合 計		0	1,102,856	-	271,795	88,721	1,285,930

(3) 年総効果額の総括

(単位：千円)

効果項目	区分	年 総 効 果 (便 益) 額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果			
畜産物等生産効果		74,702	区画整理及び農業用施設を実施した場合と実施しなかった場合での畜産物等生産量が増減する効果
営農経費節減効果		31,862	区画整理及び農業用施設を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果
維持管理費節減効果		△ 7,500	農業用施設を実施した場合と実施しなかった場合での施設の維持管理費が増減する効果
農業の持続的発展に関する効果			
畜産環境改善効果		9,153	農業用施設を実施した場合と実施しなかった場合での家畜排せつ物に起因する悪臭問題の解消や水質汚濁の防止といった畜産環境問題を改善する効果
その他の効果			
国産農産物安定供給効果		35,346	区画整理の実施により農業生産性の向上や営農条件等の改善が図られ、国産農産物の安定供給に寄与する効果
合 計		143,563	

(4) 総便益額算出表-1

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ^t ① 0.04	経過年 (t)	畜産物等生産効果						備考
				更新分に 係る効果 年効果額 (千円) ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計		
					年効果額 (千円) ③	効果発生 割合 (%) ④	年発生 効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤	同割左 引後 (千円) ⑦=⑥÷①	
				1	R8	1.0400	1	-	74,702	
2	R9	1.0816	2	-	74,702	0.0	0	0	0	
3	R10	1.1249	3	-	74,702	20.0	14,940	14,940	13,281	
4	R11	1.1699	4	-	74,702	40.0	29,881	29,881	25,541	
5	R12	1.2167	5	-	74,702	60.1	44,896	44,896	36,900	
6	R13	1.2653	6	-	74,702	80.1	59,836	59,836	47,290	
7	R14	1.3159	7	-	74,702	100.0	74,702	74,702	56,769	
8	R15	1.3686	8	-	74,702	100.0	74,702	74,702	54,583	
9	R16	1.4233	9	-	74,702	100.0	74,702	74,702	52,485	
10	R17	1.4802	10	-	74,702	100.0	74,702	74,702	50,468	
11	R18	1.5395	11	-	74,702	100.0	74,702	74,702	48,524	
12	R19	1.6010	12	-	74,702	100.0	74,702	74,702	46,660	
13	R20	1.6651	13	-	74,702	100.0	74,702	74,702	44,863	
14	R21	1.7317	14	-	74,702	100.0	74,702	74,702	43,138	
15	R22	1.8009	15	-	74,702	100.0	74,702	74,702	41,480	
16	R23	1.8730	16	-	74,702	100.0	74,702	74,702	39,884	
17	R24	1.9479	17	-	74,702	100.0	74,702	74,702	38,350	
18	R25	2.0258	18	-	74,702	100.0	74,702	74,702	36,875	
19	R26	2.1068	19	-	74,702	100.0	74,702	74,702	35,458	
20	R27	2.1911	20	-	74,702	100.0	74,702	74,702	34,093	
21	R28	2.2788	21	-	74,702	100.0	74,702	74,702	32,781	
22	R29	2.3699	22	-	74,702	100.0	74,702	74,702	31,521	
23	R30	2.4647	23	-	74,702	100.0	74,702	74,702	30,309	
24	R31	2.5633	24	-	74,702	100.0	74,702	74,702	29,143	
25	R32	2.6658	25	-	74,702	100.0	74,702	74,702	28,022	
26	R33	2.7725	26	-	74,702	100.0	74,702	74,702	26,944	
27	R34	2.8834	27	-	74,702	100.0	74,702	74,702	25,908	
28	R35	2.9987	28	-	74,702	100.0	74,702	74,702	24,911	
29	R36	3.1187	29	-	74,702	100.0	74,702	74,702	23,953	
30	R37	3.2434	30	-	74,702	100.0	74,702	74,702	23,032	
31	R38	3.3731	31	-	74,702	100.0	74,702	74,702	22,146	
32	R39	3.5081	32	-	74,702	100.0	74,702	74,702	21,294	
33	R40	3.6484	33	-	74,702	100.0	74,702	74,702	20,475	
34	R41	3.7943	34	-	74,702	100.0	74,702	74,702	19,688	
35	R42	3.9461	35	-	74,702	100.0	74,702	74,702	18,931	
36	R43	4.1039	36	-	74,702	100.0	74,702	74,702	18,203	
37	R44	4.2681	37	-	74,702	100.0	74,702	74,702	17,502	
38	R45	4.4388	38	-	74,702	100.0	74,702	74,702	16,829	
39	R46	4.6164	39	-	74,702	100.0	74,702	74,702	16,182	
40	R47	4.8010	40	-	74,702	100.0	74,702	74,702	15,560	
41	R48	4.9931	41	-	74,702	100.0	74,702	74,702	14,961	
42	R49	5.1928	42	-	74,702	100.0	74,702	74,702	14,386	
43	R50	5.4005	43	-	74,702	100.0	74,702	74,702	13,832	
44	R51	5.6165	44	-	74,702	100.0	74,702	74,702	13,300	
45	R52	5.8412	45	-	74,702	100.0	74,702	74,702	12,789	
46	R53	6.0748	46	-	74,702	100.0	74,702	74,702	12,297	
合計 (総便益額)									1,291,541	

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表-2

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ^t ① 0.04	経過年 (t)	営農経費節減効果						備考
				更新分に 係る効果 年効果額 (千円) ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計		
					年効果額 (千円) ③	効果発生 割合 (%) ④	年発生 効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤	同 割引 率 (千円) ⑦=⑥÷①	
1	R8	1.0400	1	-	31,862	0.0	0	0	0	
2	R9	1.0816	2	-	31,862	0.0	0	0	0	
3	R10	1.1249	3	-	31,862	20.0	6,372	6,372	5,665	
4	R11	1.1699	4	-	31,862	40.0	12,745	12,745	10,894	
5	R12	1.2167	5	-	31,862	60.1	19,149	19,149	15,738	
6	R13	1.2653	6	-	31,862	80.1	25,521	25,521	20,170	
7	R14	1.3159	7	-	31,862	100.0	31,862	31,862	24,213	
8	R15	1.3686	8	-	31,862	100.0	31,862	31,862	23,281	
9	R16	1.4233	9	-	31,862	100.0	31,862	31,862	22,386	
10	R17	1.4802	10	-	31,862	100.0	31,862	31,862	21,525	
11	R18	1.5395	11	-	31,862	100.0	31,862	31,862	20,696	
12	R19	1.6010	12	-	31,862	100.0	31,862	31,862	19,901	
13	R20	1.6651	13	-	31,862	100.0	31,862	31,862	19,135	
14	R21	1.7317	14	-	31,862	100.0	31,862	31,862	18,399	
15	R22	1.8009	15	-	31,862	100.0	31,862	31,862	17,692	
16	R23	1.8730	16	-	31,862	100.0	31,862	31,862	17,011	
17	R24	1.9479	17	-	31,862	100.0	31,862	31,862	16,357	
18	R25	2.0258	18	-	31,862	100.0	31,862	31,862	15,728	
19	R26	2.1068	19	-	31,862	100.0	31,862	31,862	15,123	
20	R27	2.1911	20	-	31,862	100.0	31,862	31,862	14,542	
21	R28	2.2788	21	-	31,862	100.0	31,862	31,862	13,982	
22	R29	2.3699	22	-	31,862	100.0	31,862	31,862	13,444	
23	R30	2.4647	23	-	31,862	100.0	31,862	31,862	12,927	
24	R31	2.5633	24	-	31,862	100.0	31,862	31,862	12,430	
25	R32	2.6658	25	-	31,862	100.0	31,862	31,862	11,952	
26	R33	2.7725	26	-	31,862	100.0	31,862	31,862	11,492	
27	R34	2.8834	27	-	31,862	100.0	31,862	31,862	11,050	
28	R35	2.9987	28	-	31,862	100.0	31,862	31,862	10,625	
29	R36	3.1187	29	-	31,862	100.0	31,862	31,862	10,216	
30	R37	3.2434	30	-	31,862	100.0	31,862	31,862	9,824	
31	R38	3.3731	31	-	31,862	100.0	31,862	31,862	9,446	
32	R39	3.5081	32	-	31,862	100.0	31,862	31,862	9,082	
33	R40	3.6484	33	-	31,862	100.0	31,862	31,862	8,733	
34	R41	3.7943	34	-	31,862	100.0	31,862	31,862	8,397	
35	R42	3.9461	35	-	31,862	100.0	31,862	31,862	8,074	
36	R43	4.1039	36	-	31,862	100.0	31,862	31,862	7,764	
37	R44	4.2681	37	-	31,862	100.0	31,862	31,862	7,465	
38	R45	4.4388	38	-	31,862	100.0	31,862	31,862	7,178	
39	R46	4.6164	39	-	31,862	100.0	31,862	31,862	6,902	
40	R47	4.8010	40	-	31,862	100.0	31,862	31,862	6,637	
41	R48	4.9931	41	-	31,862	100.0	31,862	31,862	6,381	
42	R49	5.1928	42	-	31,862	100.0	31,862	31,862	6,136	
43	R50	5.4005	43	-	31,862	100.0	31,862	31,862	5,900	
44	R51	5.6165	44	-	31,862	100.0	31,862	31,862	5,673	
45	R52	5.8412	45	-	31,862	100.0	31,862	31,862	5,455	
46	R53	6.0748	46	-	31,862	100.0	31,862	31,862	5,245	
合計 (総便益額)									550,866	

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表-3

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ^t ① 0.04	経過年 (t)	維持管理費節減効果						備考
				更新分に 係る効果 年効果額 (千円) ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計		
					年効果額 (千円) ③	効果発生 割合 (%) ④	年発生 効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤	割引後 (千円) ⑦=⑥÷①	
				1	R8	1.0400	1	0	△ 7,500	
2	R9	1.0816	2	0	△ 7,500	0.0	0	0	0	
3	R10	1.1249	3	0	△ 7,500	0.0	0	0	0	
4	R11	1.1699	4	0	△ 7,500	0.0	0	0	0	
5	R12	1.2167	5	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 6,164	
6	R13	1.2653	6	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 5,927	
7	R14	1.3159	7	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 5,700	
8	R15	1.3686	8	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 5,480	
9	R16	1.4233	9	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 5,269	
10	R17	1.4802	10	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 5,067	
11	R18	1.5395	11	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 4,872	
12	R19	1.6010	12	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 4,685	
13	R20	1.6651	13	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 4,504	
14	R21	1.7317	14	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 4,331	
15	R22	1.8009	15	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 4,165	
16	R23	1.8730	16	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 4,004	
17	R24	1.9479	17	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 3,850	
18	R25	2.0258	18	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 3,702	
19	R26	2.1068	19	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 3,560	
20	R27	2.1911	20	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 3,423	
21	R28	2.2788	21	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 3,291	
22	R29	2.3699	22	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 3,165	
23	R30	2.4647	23	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 3,043	
24	R31	2.5633	24	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,926	
25	R32	2.6658	25	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,813	
26	R33	2.7725	26	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,705	
27	R34	2.8834	27	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,601	
28	R35	2.9987	28	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,501	
29	R36	3.1187	29	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,405	
30	R37	3.2434	30	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,312	
31	R38	3.3731	31	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,223	
32	R39	3.5081	32	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,138	
33	R40	3.6484	33	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 2,056	
34	R41	3.7943	34	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,977	
35	R42	3.9461	35	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,901	
36	R43	4.1039	36	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,828	
37	R44	4.2681	37	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,757	
38	R45	4.4388	38	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,690	
39	R46	4.6164	39	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,625	
40	R47	4.8010	40	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,562	
41	R48	4.9931	41	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,502	
42	R49	5.1928	42	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,444	
43	R50	5.4005	43	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,389	
44	R51	5.6165	44	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,335	
45	R52	5.8412	45	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,284	
46	R53	6.0748	46	0	△ 7,500	100.0	△ 7,500	△ 7,500	△ 1,235	
合計 (総便益額)									△ 129,411	

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表-4

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ^t ① 0.04	経過年 (t)	畜産環境改善効果						備考
				更新分に 係る効果 年効果額 (千円) ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計		
					年効果額 (千円) ③	効果発生 割合 (%) ④	年発生 効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤	同左 割引後 (千円) ⑦=⑥÷①	
1	R8	1.0400	1	-	9,153	0.0	0	0	0	
2	R9	1.0816	2	-	9,153	0.0	0	0	0	
3	R10	1.1249	3	-	9,153	0.0	0	0	0	
4	R11	1.1699	4	-	9,153	100.0	9,153	9,153	7,824	
5	R12	1.2167	5	-	9,153	100.0	9,153	9,153	7,523	
6	R13	1.2653	6	-	9,153	100.0	9,153	9,153	7,234	
7	R14	1.3159	7	-	9,153	100.0	9,153	9,153	6,956	
8	R15	1.3686	8	-	9,153	100.0	9,153	9,153	6,688	
9	R16	1.4233	9	-	9,153	100.0	9,153	9,153	6,431	
10	R17	1.4802	10	-	9,153	100.0	9,153	9,153	6,184	
11	R18	1.5395	11	-	9,153	100.0	9,153	9,153	5,945	
12	R19	1.6010	12	-	9,153	100.0	9,153	9,153	5,717	
13	R20	1.6651	13	-	9,153	100.0	9,153	9,153	5,497	
14	R21	1.7317	14	-	9,153	100.0	9,153	9,153	5,286	
15	R22	1.8009	15	-	9,153	100.0	9,153	9,153	5,082	
16	R23	1.8730	16	-	9,153	100.0	9,153	9,153	4,887	
17	R24	1.9479	17	-	9,153	100.0	9,153	9,153	4,699	
18	R25	2.0258	18	-	9,153	100.0	9,153	9,153	4,518	
19	R26	2.1068	19	-	9,153	100.0	9,153	9,153	4,345	
20	R27	2.1911	20	-	9,153	100.0	9,153	9,153	4,177	
21	R28	2.2788	21	-	9,153	100.0	9,153	9,153	4,017	
22	R29	2.3699	22	-	9,153	100.0	9,153	9,153	3,862	
23	R30	2.4647	23	-	9,153	100.0	9,153	9,153	3,714	
24	R31	2.5633	24	-	9,153	100.0	9,153	9,153	3,571	
25	R32	2.6658	25	-	9,153	100.0	9,153	9,153	3,433	
26	R33	2.7725	26	-	9,153	100.0	9,153	9,153	3,301	
27	R34	2.8834	27	-	9,153	100.0	9,153	9,153	3,174	
28	R35	2.9987	28	-	9,153	100.0	9,153	9,153	3,052	
29	R36	3.1187	29	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,935	
30	R37	3.2434	30	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,822	
31	R38	3.3731	31	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,714	
32	R39	3.5081	32	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,609	
33	R40	3.6484	33	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,509	
34	R41	3.7943	34	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,412	
35	R42	3.9461	35	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,320	
36	R43	4.1039	36	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,230	
37	R44	4.2681	37	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,145	
38	R45	4.4388	38	-	9,153	100.0	9,153	9,153	2,062	
39	R46	4.6164	39	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,983	
40	R47	4.8010	40	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,906	
41	R48	4.9931	41	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,833	
42	R49	5.1928	42	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,763	
43	R50	5.4005	43	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,695	
44	R51	5.6165	44	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,630	
45	R52	5.8412	45	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,567	
46	R53	6.0748	46	-	9,153	100.0	9,153	9,153	1,507	
合計 (総便益額)									165,759	

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

(4) 総便益額算出表－5

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ^t ① 0.04	経過年 (t)	国産農産物安定供給効果						備考
				更新分に 係る効果 年効果額 (千円) ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計		
					年効果額 (千円) ③	効果発生 割合 (%) ④	年発生 効果額 (千円) ⑤=③×④	年効果額 (千円) ⑥=②+⑤	同 割引後 (千円) ⑦=⑥÷①	
1	R8	1.0400	1	-	35,346	0.0	0	0	0	
2	R9	1.0816	2	-	35,346	0.0	0	0	0	
3	R10	1.1249	3	-	35,346	20.0	7,069	7,069	6,284	
4	R11	1.1699	4	-	35,346	40.0	14,138	14,138	12,085	
5	R12	1.2167	5	-	35,346	60.1	21,243	21,243	17,460	
6	R13	1.2653	6	-	35,346	80.1	28,312	28,312	22,376	
7	R14	1.3159	7	-	35,346	100.0	35,346	35,346	26,861	
8	R15	1.3686	8	-	35,346	100.0	35,346	35,346	25,826	
9	R16	1.4233	9	-	35,346	100.0	35,346	35,346	24,834	
10	R17	1.4802	10	-	35,346	100.0	35,346	35,346	23,879	
11	R18	1.5395	11	-	35,346	100.0	35,346	35,346	22,959	
12	R19	1.6010	12	-	35,346	100.0	35,346	35,346	22,077	
13	R20	1.6651	13	-	35,346	100.0	35,346	35,346	21,228	
14	R21	1.7317	14	-	35,346	100.0	35,346	35,346	20,411	
15	R22	1.8009	15	-	35,346	100.0	35,346	35,346	19,627	
16	R23	1.8730	16	-	35,346	100.0	35,346	35,346	18,871	
17	R24	1.9479	17	-	35,346	100.0	35,346	35,346	18,146	
18	R25	2.0258	18	-	35,346	100.0	35,346	35,346	17,448	
19	R26	2.1068	19	-	35,346	100.0	35,346	35,346	16,777	
20	R27	2.1911	20	-	35,346	100.0	35,346	35,346	16,132	
21	R28	2.2788	21	-	35,346	100.0	35,346	35,346	15,511	
22	R29	2.3699	22	-	35,346	100.0	35,346	35,346	14,915	
23	R30	2.4647	23	-	35,346	100.0	35,346	35,346	14,341	
24	R31	2.5633	24	-	35,346	100.0	35,346	35,346	13,789	
25	R32	2.6658	25	-	35,346	100.0	35,346	35,346	13,259	
26	R33	2.7725	26	-	35,346	100.0	35,346	35,346	12,749	
27	R34	2.8834	27	-	35,346	100.0	35,346	35,346	12,258	
28	R35	2.9987	28	-	35,346	100.0	35,346	35,346	11,787	
29	R36	3.1187	29	-	35,346	100.0	35,346	35,346	11,334	
30	R37	3.2434	30	-	35,346	100.0	35,346	35,346	10,898	
31	R38	3.3731	31	-	35,346	100.0	35,346	35,346	10,479	
32	R39	3.5081	32	-	35,346	100.0	35,346	35,346	10,076	
33	R40	3.6484	33	-	35,346	100.0	35,346	35,346	9,688	
34	R41	3.7943	34	-	35,346	100.0	35,346	35,346	9,316	
35	R42	3.9461	35	-	35,346	100.0	35,346	35,346	8,957	
36	R43	4.1039	36	-	35,346	100.0	35,346	35,346	8,613	
37	R44	4.2681	37	-	35,346	100.0	35,346	35,346	8,281	
38	R45	4.4388	38	-	35,346	100.0	35,346	35,346	7,963	
39	R46	4.6164	39	-	35,346	100.0	35,346	35,346	7,657	
40	R47	4.8010	40	-	35,346	100.0	35,346	35,346	7,362	
41	R48	4.9931	41	-	35,346	100.0	35,346	35,346	7,079	
42	R49	5.1928	42	-	35,346	100.0	35,346	35,346	6,807	
43	R50	5.4005	43	-	35,346	100.0	35,346	35,346	6,545	
44	R51	5.6165	44	-	35,346	100.0	35,346	35,346	6,293	
45	R52	5.8412	45	-	35,346	100.0	35,346	35,346	6,051	
46	R53	6.0748	46	-	35,346	100.0	35,346	35,346	5,818	
合計 (総便益額)									611,107	

※経過年は評価年からの年数。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

2. 効果額の算定方法

(1) 畜産物等生産効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）の畜産物等生産量の比較により年効果額を算定した。

○対象生産物
牧草

○年効果額算定式

年効果額 = 畜産物等増減年便益※1 + 作物生産増減年便益※2

※①畜産物等増減年便益 = 公共牧場への預託による畜産物増減年便益

・公共牧場への預託による畜産物増減年便益

1) 増体効果 = (ありせば預託頭数 - なかりせば預託頭数) × 一日当たり上昇価値 × 預託日数 × 預託純益率

2) 仔牛生産効果 = (ありせば預託頭数 - なかりせば預託頭数) × 生産率 (× 1 / へい死率) × 一日当たり上昇価値 × 預託日数 × 預託純益率

※②作物生産性年便益 = 単収増加年効果額 + 作付増減年効果額

・単収増加年効果額 = 作付面積 × (事業ありせば単収 - 事業なかりせば単収) × 単価 × 単価増加の純益率

・作付増減年効果額 = (事業ありせば作付面積 - 事業なかりせば作付面積) × 単収 × 単価 × 作付増減の純益率

○年効果額の算定

①畜産物等増減年便益：公共牧場への預託による畜産物増減年便益【施設整備】

1) 増体効果

種類・期間	預託増加頭数			一日当たり 上昇価値	預託日数	増加粗 収益額	預託 純益率	年効果額
	なかり せば ①	ありせ ば ②	③=②-①					
	頭	頭	頭	円	日	千円	%	千円
乳用牛・育成牛・夏期	200	350	150	795	160	19,080	8	1,526
乳用牛・育成牛・冬期	200	350	150	795	205	24,446	8	1,956
	合計					43,526		3,482

2) 仔牛生産効果

区分	預託増加頭数			畜種	生産率	へい 死率	生産頭数	一日当たり 上昇価値	預託 日数	増加粗 収益額	預託 純益率	年効果額
	なかり せば ①	ありせ ば ②	③=②-①									
	頭	頭	頭		%	%	頭	円	日	千円	%	千円
乳用牛 育成牛 夏期	200	350	150	雄子牛	37.50	1.7	55	120	160	1,056	8	84
				雌子牛	37.50	1.7	55	207	160	1,822	8	146
				F1	25.00	1.7	37	201	160	1,190	8	95
乳用牛 育成牛 冬期	200	350	150	雄子牛	37.50	1.7	55	120	205	1,353	8	108
				雌子牛	37.50	1.7	55	207	205	2,334	8	187
				F1	25.00	1.7	37	201	205	1,525	8	122
	合計									9,280		742

②作物生産性年便益【区画整理】

作物名	新設・更新	作付面積			効果要因	単収			生産増減量 ③=①×②÷100	生産物単価 ④	増加粗収益額 ⑤=③×④	純益率 ⑥	年効果額 ⑦=⑤×⑥
		現況	計画	効果発生面積 ①		事業なかりせば単収	事業ありせば単収	効果算定対象単収 ②					
牧草	新設	ha	ha	ha	単収増	kg/10a	kg/10a	kg/10a	t	千円/t	千円	%	千円
		184.5	184.5	184.5		2,230	3,830	1,600	2,952.0 (1,283.5)	106	136,051	23	31,292
		168.8	168.8	168.8	単収増	1,640	3,830	2,190	3,696.7 (1,607.3)	106	170,374	23	39,186
合計											306,425		70,478

※「生産増減量」欄の（ ）は生乳換算値。牧草は2.3kgで生乳1kgで換算。

①+② : 74,702

【①（畜産物等増減年便益：公共牧場への預託による畜産物増減年便益）】

- ・事業なかりせば預託頭数：既存施設の規模【前歴事業の計画頭数】により決定した。
- ・事業ありせば預託頭数：公共牧場の将来構想に基づき決定した。
- ・生産率：北海道酪農・畜産生産近代化計画により算定した。
- ・一日当たり上昇価値：ホクレン家畜市場等の最近5か年の平均値の差と所要日数により算定した。
- ・預託純益率：R7土地改良事業の費用対効果分析に係る諸係数単価（北海道農政部）より引用。

【②（作物生産性年便益）】

- ・作付面積：「現況作付面積」は、作付実績に基づき決定した。「計画作付面積」は、関係市及びJAの農業振興計画や関係者の意向を踏まえ決定した。
- ・事業なかりせば単収：現況単収であり、地区の牧草収量調査結果を用いた。
- ・事業ありせば単収：関係市酪農・肉用牛生産近代化計画書により決定した。
- ・生産物単価（乳用牛）：R7土地改良事業の費用対効果分析に係る諸係数単価（北海道農政部）より引用。
- ・生産物単価（肉用牛）：ホクレン家畜市場等の最近5か年の平均値により、消費者物価指数を反映した価格を用いた。
- ・純益率：「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」による標準値を用いた。

(2) 営農経費節減効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と事業を実施しなかった場合（事業なかりせば）の労働費、機械経費、その他の生産資材費について比較し、それらの営農経費の増減から年効果額を算定した。

○対象生産物

牧草

○効果算定式

（農業用施設、区画整理）

年効果額 = 預託に係る飼料費節減年便益 + 農機具費等節減年便益 + 預託に係る労働費節減年便益 + 施設整備に伴う労働費節減年便益

※①預託に係る飼料費節減年便益 = (事業ありせば預託頭数 - 事業なかりせば預託頭数) × 預託農家1日1頭当たり飼料費 × 預託日数

（区画整理等）

※②農機具費等節減年便益 = (事業なかりせば単位面積当り営農経費 - 事業ありせば単位面積当り営農経費) × 効果発生面積

※③預託に係る労働費節減年便益 = (事業ありせば預託頭数 - 事業なかりせば預託頭数) × 預託農家1日1頭当たり労働時間 × 預託日数 × 賃金単価

○年効果額の算定

①預託に係る飼料費節減年便益【施設整備】

区分	事業 なかりせば 預託頭数 ①	事業 ありせば 預託頭数 ②	預託頭数 の増減 ③=②-①	預託農家1日 1頭当たり 飼料費 ④	預託 日数 ⑤	年効果額 ⑥=③×④×⑤
	頭	頭	頭	円/頭/日	日	千円
乳用牛ほ育牛夏期	58	91	33	144.84	160	765
ほ育牛冬期	58	91	33	144.84	205	980
育成牛夏期	142	259	117	291.61	160	5,459
育成牛冬期	142	259	117	291.61	205	6,994
合計						14,198

②農機具費等節減年便益【区画整理】

作物名	面積 (ha) ①	草地利用区分	現況営農経費 (円/ha) ②	計画営農経費 (円/ha) ③	経費節減額 (円/ha) ④	営農経費節減 額(千円) ⑤=①×④
牧草 (個別農家)	26.4	更新	426,057	387,147	38,910	1,027
	29.7	乾草	227,458	199,907	27,551	818
	128.4	サイレージ	226,131	201,684	24,447	3,139
牧草 (公共牧場)	24.1	更新	434,324	394,133	40,191	969
	27.2	乾草	231,496	203,319	28,177	766
	99.7	サイレージ	229,927	204,905	25,022	2,495
	17.8	放牧	145,569	132,539	13,030	232
合計	353.3					9,446

③預託に係る労働費節減年便益【施設整備】

区 分	事業 なかりせば 預託頭数 ①	事業 ありせば 預託頭数 ②	預託頭数 の増減 ③=②-①	預託農家1日 1頭当たり 労働時間 ④	預託 日数 ⑤	賃金 単価 ⑥	年効果額 ⑦=③×④×⑤×⑥/1000
	頭	頭	頭	hr/頭/日	日	円/hr	千円
乳用牛ほ育牛夏期	58	91	33	0.100	160	1,940	1,024
ほ育牛冬期	58	91	33	0.100	205	1,940	1,312
育成牛夏期	142	259	117	0.071	160	1,940	2,578
育成牛冬期	142	259	117	0.071	205	1,940	3,304
合 計							8,218

①+②+③ : 31,862

【農業用施設】

- ・ 預託農家1日1頭当たり飼料費 : 北海道農業生産技術体系(第6版)及び日本標準飼料成分表2009年版、農業経営統計調査(畜産物生産費:牛乳生産費)により算定した。
- ・ 預託農家1日1頭当たり労働時 : 北海道農業生産技術体系(第6版)により算定した。
- ・ 事業なかりせば1頭当たり労働時間 : 北海道農業生産技術体系(第6版)乳用牛飼養体系により算定した。
- ・ 事業ありせば1頭当たり労働時間 : 北海道農業生産技術体系(第6版)乳用牛飼養体系により算定した。
- ・ 賃 金 単 価 : 諸係数・単価通知(北海道農政部農村振興局農村計画課調べ)

【区画整理】

- ・ 事業なかりせば営農経費 : 生産費調査の等の実態調査に基づき算定した。
- ・ 事業ありせば営農経費 : ほ場条件が改善され、営農技術体系や利用機械の種類等が変化することによる営農条件変化後の計画営農経費を算定した。
- ・ 発 生 面 積 割 合 : 公共牧場の利用計画、又は北海道農政部農村振興局農地整備課調べ

(3) 維持管理費節減効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）を比較し、維持管理費の増減をもって年効果額を算定した。

○対象施設

農業用施設

○効果算定式

年効果額 = 事業なかりせば維持管理費 - 事業ありせば維持管理費

○年効果額の算定

(農業用施設)

区 分	事業なかりせば 維持管理費 ①	事業ありせば 維持管理費 ②	年効果額 ③=①-②
	千円	千円	千円
新設整備	-	7,500	△ 7,500
更新整備	9,925	9,925	0
合 計			△ 7,500

- ・ 事業なかりせば維持管理費 : 新設施設につき計上しない。
- ・ 事業ありせば維持管理費 : 近傍施設の維持管理費を基に、本事業の実施により見込まれる維持管理費の増減を考慮し算定した。

(4) 畜産環境改善効果

○効果の考え方

農業用施設の整備により、家畜排せつ物に起因する水質汚濁の防止といった畜産環境問題を解決する効果であり、当該事業を実施した場合（事業ありせば）と事業を実施しなかった場合（事業なかりせば）の比較により年便益額を算定する。

○対象施設

農業用施設（家畜排せつ物処理施設）

○効果算定式

年効果額 = 悪臭防止年便益 + 水質汚濁防止年便益

※①悪臭防止年便益 = [(整備施設における家畜排せつ物処理ありせば処理量) - (整備施設における家畜排せつ物処理なかりせば処理量)] × 家畜排せつ物1頭当たり防臭剤等の薬剤散布単価

※②水質汚濁防止年便益 = (事業ありせば窒素処理量 - 事業なかりせば窒素処理量) × 流出率 × 窒素浄化処理単価

○年効果額の算定

①悪臭防止年便益

区分	排せつ物量 原単位 (kg/日) ①	事業なかりせば		事業ありせば		悪臭防止 便益 (千円) ⑦=(⑥- ④)/1000× 918/1000
		頭数 (頭) ③	年間排せつ物量 (kg) ④=③×①	頭数 (頭) ⑤	年間排せつ物量 (kg) ⑥=⑤×①	
乳用牛			-		-	0
水質汚濁防止年便益(合計)						0

※防臭剤等の薬剤散布単価を918円/t（「草地開発整備事業の費用対効果分析マニュアル」P39）

※冬期舎飼日数の209日間

②水質汚濁防止年便益

区分	1頭・羽当 たり年間窒 素排せつ量 (kg/年) ①	事業なかりせば				事業ありせば				水質汚濁 防止効果 (千円) ⑩=(⑨-⑤) ×流出率 ×窒素浄化 処理単価	
		頭羽数 (頭) ②	1日窒素 排出量 (kg/頭) ③=②×① /365	冬期 舎飼 日数 ④	年間窒素 処理量 ⑤=③×④	頭羽数 (頭) ⑥	1日窒素 排出量 (kg/頭) ⑦=⑥×① /365	冬期 舎飼 日数 ⑧	年間窒素 処理量 ⑨=⑦×⑧		
乳用牛	育成牛・子牛	47.34	200	26	205	5,330	350	45	205	9,225	9,153
水質汚濁防止年便益(合計)											9,153

※流出率は50%（「草地開発整備事業の費用対効果分析マニュアル」P39）

※窒素浄化処理単価は 4,700 円/kg（「草地開発整備事業の費用対効果分析マニュアル」P39）

①+② : 9,153

〔 ・ 1頭・羽当たり年間窒素排せつ量 : 「草地開発整備事業の費用対効果分析マニュアル」P39による 〕

(5) その他の効果（国産農産物安定供給効果）

○効果の考え方

国産農産物の安定供給に対して国民が感じる安心感の効果であるため、一般国民に対してWTP（Willingness To Pay：支払意思額）を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM（Contingent Valuation Method：仮想市場法）により年効果額を算定した。

○対象作物

牧草

○効果算定式

$$\text{年効果額} = \text{年増加粗収益額} \times \text{単位食料生産額当たり効果額（原単位）} \\ + \text{年増加供給熱量} \times \text{単位供給熱量当たり効果額（原単位）}$$

○年効果額の算定

区分	増加粗収益額 ①	増加供給熱量 （千kcal） ②	単位食料生産額当 たり効果額（円/ 千円） ③	単位供給熱量当た り効果額 （円/千kcal） ④	当該土地改良事業 における年効果額 ⑤=①×③ +②×④
	千円	千kcal	円/千円	円/千kcal	千円
新設整備	52,806		49	9.9	2,587
	306,425	1,792,296	49	9.9	32,759
合計	359,231	1,792,296			35,346

- ・増加粗収益額 : 畜産物等生産効果の算定過程で整理した結果を用いて、事業ありせばと事業なかりせばにおける増加粗収益額及び増加供給熱量を整理した。
- ・単位食料生産額
当たり効果額 : 一般国民に対し国産農産物の安定供給についてWTPを尋ねるCVMにより、年効果額の算定に用いる単位食料生産額当たり効果額（原単位）は49円/千円、単位供給熱量当たり効果額（原単位）は9.9円/千kcalとした

3. 評価に使用した資料

【共通】

- ・ 農林水産省農村振興局整備部（監修）[改訂版]「新たな土地改良の効果算定マニュアル」大成出版社（平成27年9月5日第2版第1刷発行）
- ・ 「土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの制定について」（平成19年3月28日付け18農振第1597号農林水産省農村振興局企画部長通知（最終改正：令和7年4月2日））
- ・ 「国産農産物安定供給効果」について（平成27年3月27日付け26農振第2072号農林水産省農村振興局整備部長通知（令和5年4月3日一部改正））
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析における参考資料等について（令和4年4月11日付け農林水産省農村振興局整備部関係課関係班連名事務連絡）
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析における参考資料等について（令和5年9月13日付け農林水産省農村振興局整備部関係課関係班連名事務連絡）
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日付け18農振第1598号農林水産省農村振興局企画部長通知（令和7年4月1日一部改正））
- ・ 土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数等について（令和7年4月1日付け農林水産省農村振興局整備部土地改良企画課課長補佐（事業効果班）事務連絡）
- ・ 草地開発整備事業の費用対効果分析マニュアル（平成22年1月21日農林水産省生産局畜産部畜産振興課草地整備推進室長事務連絡）

【費用】

- ・ 当該事業費に係る一般に公表されていない諸元については、北海道農政部農村振興局農地整備課調べ

【便益】

- ・ 北海道農業生産技術体系 北海道農政部編（第6版）（令和6年3月 公益財団法人 北海道農業改良普及協会）
- ・ 日本飼養標準 乳牛（2017年版）（独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構編）
- ・ 農林水産省大臣官房統計部「平成26～30農業経営統計調査牛乳生産費」
- ・ 上記以外の効果算定に必要な各種諸元については、北海道農政部農村振興局農地整備課調べ